

平成二十五年 度 帝塚山 中学校 一次入学試験問題 ・ 国 語 (その一)

受験番号

※答えはすべて解答用紙に書きなさい。 ※選んで答える問題は、記号で答えなさい。

※特にことわりのないかぎり、句読点やかきかっこ、まるかっこなどの記号はすべて字数にふくみます。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

谷内さんが最初に缶詰のふたと出会ったのは、いまから二十年も前のことだという。

あるとき、自動販売機の缶ジュースを飲んでいて、ふと、缶本体は鉄製なのに、缶のふたはアルミ製だということに気づいた。調べてみるとスチール缶と表示があっても、どの缶もほとんど、ふたはアルミ製だった。

(a) という金属は、ちょっと引っぱると、内部応力で自己破断する性質がある。ところが鉄は自己破断しない。力がおよんだところまでしか破断しない。(b) のほうがふたをあけやすい。しかし、(c) は(d) とくらべたら、材料費は格段に高い。それなら、金型を工夫して、鉄でも楽にかけられるようにすればいいのに。谷内さんはそう考えた。

そういう工夫をした金型を作った。そしてそれを大手の缶メーカーに持ちこんだ。(A) 、大手メーカーは、¹ そんなことはできるわけがないと、門前ばらいだったという。

それでしかたないから、自分で鉄製のふたの特許を取った。以来、特許の数はすでに五十余りもある。大手の缶メーカーの仕事ではないけれど、谷内さんは以来さまざまな缶を、その小さな工場で作ってきた。

金型を作るだけではない。その金型を使って缶を作る機械に、さまざまな工夫をくわえてきた。金型を使う機械といえはプレスなのだけれど、谷啓製作所のプレス機械は、本体を作っているプレス機械メーカーもびっくりするにちがいないほど、さまざまな能力がつけくわえられている。工作機械に付加するそのような部分を周辺機器というのだけれど、谷啓製作所はいま、そういう工夫の経験をいかして、「各種小型省力機械の設計及び製造」という仕事もしている。

会社案内の文面がもしろい。缶蓋製造ライン構築で培ったノウハウ(技術情報のこと)を生かし、パートタイマー三人分の仕事を一人分の投資で実現する様な、小型の省力機器の設計製造も行っています。【 I I 】「孫の手」が必要な方は、ぜひご相談を。

いそがしいときには【 I 】も借りたいという。背中などの、手の届かないところをかくために工夫された小さな道具を、孫(麻姑)の手という。(B) 、周辺機器などという耳なれない言葉よりも、よっぽどその役割をいいあてている。のちにくわしく述べるが、市販されている機械に工夫をくわえる、(C) 、【 I I 】や孫の手をつけくわえることができるかどうかは、² 工場の命運を左右するほど大切なことである。

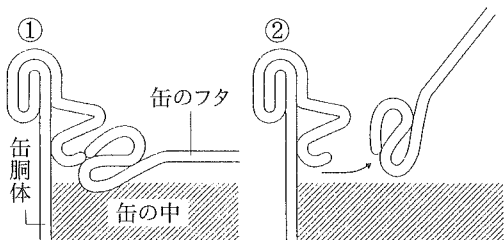
指の切れない、³ 安全なプルトップ缶に挑戦したのは、アメリカのピアニストが一億円の賠償金を取った、という新聞記事を読んだのがきっかけだった。じっさい、いままアメリカの大手缶詰メーカー一社に限っても、一日平均六件、年間千五百件のトラブルが発生している。PL法(製造物によって生じた事故は、製造者がその責任をおうべきだという法律)の規制の厳しいアメリカやヨーロッパでは、缶のふたによる事故をそのまま放置すれば、メーカーの社会的道徳をも問われるという問題にまで発展していた。

(D) 、アメリカはもちろん、イギリスやドイツでも、安全なふたの研究は進められた。じつは日本の大手缶メーカーも、ある国立大学の研究室に依頼していた。その研究費用がなんと十五億円だったという。しかし、どうしても、安全なふたは作れなかった。それを日本の東京の下町の、小さな町工場のオヤジさんが作ってしまった。

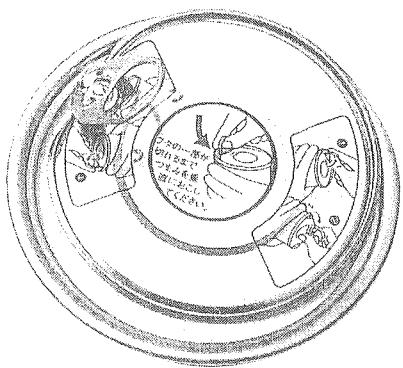
どのようなふたか。

ふつうのプルトップ缶のふたは平板だから、切りはなしたあとは、ふたの部分も本体の部分も鋭利な刃物とおなじようになってしまう。ところが谷内さんのふたは、断面図を見ればわかるように、S字状のループ(環)になっている。そしてふたをとるときので、切り口が自然に内側に巻きこまれて隠れてしまう。だから、【 I I 】心配はまったくくない。

安全なプルトップ缶の切り口の断面図



安全なプルトップ缶ふたの実物。谷啓製作所提供



平成二十五年度 帝塚山中学校 一次入学試験問題・国語 (その二)

絵で見れば、なるほどなっとくもゆく。なんだ、そんなかんたんなことかと思う人もいるだろう。

じっさい、谷内さんによれば、S字状の傾斜が百分の数ミリちがうだけで、切り口は隠れないという。そのあたりがまさしく、コンピュータを使って机上で計算しただけでは作れないところらしい。

「長年の職人の経験から、手で覚えた感触と勘を頼りに、千分の一ミリずつ、ずらす4試ア錯イだった。そうして、S字の形や、切断部の切り込みの位置を決めていった」(「朝日新聞」)

こうして、世界ではじめて、指の切れないプルトップ缶のふたが誕生した。

「修業時代のカンドコロが生まれました」

谷内さんがわたしにそういったとき、谷内さんの瞳は、遠い昔を見るように細められていた。故郷をあとに、戦後間もない焼跡だらけの東京の工場に就職するために上京した少年。見習工とは名ばかりの丁稚奉公。歯をくいしばった修業時代。つられて、わたしもまた、少年時代のいっときを思い出していた。

スチール製でしかも安全なこの缶で、谷内さんは十七ヶ国の国際特許を取得した。最初に注目したのは、アメリカの大手缶詰メーカーだった。交渉のすえ、アメリカ国内で生産する特許権を、数億円で売った。

缶ふたは世界共通部分だから、いまフランス、ドイツ、イギリス、メキシコ、タイや台湾や韓国からも引き合いがきている。谷啓製作所の名は、なぜか訛って、タナカイとよばれる。もはや世界のタナカイとなった。

間もなく、アメリカの大手メーカーが、タナカイの技術を使った安全な缶詰を、世界に向けて売り出すという。日本はどうか？日本の大手缶メーカーは、十五億円もの研究費を使って開発しようとしたのに、いまのところ静観しているらしい。日本人は、缶のふたで指を切っても、自分がへただったから、と思ってしまう。自己責任性が強いから、PL法があるのにメーカーを訴えようとする。

しかし、いつまでも5そういうわけにはゆかないだろう。最近、町内会などをとおして、あき缶やあきビンを回収して、資源のムダ使いをなくそうという運動が、全国にひろがっている。あき缶の内側の食べ残しを洗う必要がふえた。そうすると、使い捨てた時代よりもはるかに、指を切る事故はふえる。そうなれば、日本の缶メーカーだって、考えないわけにはゆかないだろう。

「6黒船ですね」

わたしは、近く日本にも輸入されるアメリカ製の安全な缶を、江戸時代の鎖国を解くカギとなった外国船になぞらえた。

谷内さんをおたずねする前から、わたしはずっと、ひとつの疑問を持っていた。これだけ複雑な形状のふたを作るとなると、費用がかさむのではないだろうか。なにしろ、フルーツ缶にせよ、ツナ缶にせよ、缶詰そのものの値段は7たかが知れている。これはあくまで想像だけれど、一個百円の缶詰だとしたら缶のふたにかけられる費用はせいぜい十円だろう。それが、いかに安全のためとはいえ、十五円もかかるようでは、メーカーは使わないのではないか。

「8それが、ぎゃくに安くできるんですよ」

谷内さんは、そういつて笑っている。なぜか。いままでの、平らな缶のふただと、かさねたりぶつけられたりしてもつぶれないように、かなり厚い鉄板を使わなければならなかった。ところが、S字状のループをつけた谷内さんのふたは、三〇パーセントも薄い鉄板でも変形しない。なぜなら、そのループがリブ(力骨)の役目をはたすからだという。

一枚の紙は弱い。しかしその紙を折って立体構造にすれば、強くなる。

安全のための工夫が、同時に構造上の工夫にもつながった。職人の技は、なんとそこまでゆき届いていたのである。わたしは脱帽せざるをえなかった。9

その谷内さんの最後の言葉を書く。

「技術顧問として招かれて、アメリカの缶詰工場に行きました。機械設備の指導に行ったんです。敷地内の移動を車で往復するよ
うな大きな工場でした。その工場に行って、金型を作る現場に入りました。工場の片隅で、ちょうどわたしくらいの年配の職人が、平ヤスリを使って金型の手仕上げをしているんです。うれしくなって、カタコトの英語で、おれも金型工だといったらびっくりして、ヤスリを渡すじゃないですか。ヤスリかけさせたら負けるものかと、さっそくそのヤスリで、やってみせた。むこうも職人だから、腰つきをひと目見ればわかる。大声あげてよろこんで、ヒトの尻をポンとたたいて、それからだきついて、頬にキスするじゃありませんか。あれはわたしには忘れられない思い出になりました」

(小関智弘『町工場・スーパーなものづくり』より)

平成二十五年 度 帝塚山 中学校 一次 入学 試験 問題 ・ 国 語 (その三)

- ※応力……物体が力を受けたとき、その力に応じて物体の内部に生まれる抵抗力。
- ※破断……やぶれてちぎれてしまうこと。
- ※特許……発明者、考案者とその発明、考案を独占どくせんすることができる特別な権利。
- ※プレス……金型を押して板金に模様ようようを打ち出したり、型通りに成型したりする機械。
- ※鋭利……歯がするどくよく切れるさま。
- ※丁稚奉公……少年のころから職人や商人などの家にやとわれて、家事や家業の仕事をすること。

1 (a) () (d) には、ア「鉄」、イ「アルミニウム」のどちらかが入ります。それぞれ適するものを選んで答えなさい。

2 (A) () (D) に入る語として、最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア つまり イ しかし ウ だから エ さらに オ なるほど

3 —— 1 「そんなこと」とありますが、どのようなことを指していますか。「) こと。」に続く形で、本文のことばを使って二十五字以内で答えなさい。

4 【 I 】に入る、動物を使った表現を四字以内で答えなさい。

5 —— 2 「工場の命運を左右するほど大切なことである」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア 市販されている機械に工夫をくわえて販売することは、人々の関心を集め、その工場にとっての名誉めいよとなるから。

イ 小型の省力機器の設計製造は、省エネルギーの推進にもつながり、環境問題の解決にも深く関わることになるから。

ウ 小型の省力機器は、少ない従業員で設計製造することを可能にし、工場のコスト(費用)削減さくげんにつながるから。

エ 工夫をくわえた機械は、多くの企業きぎょうからの需要じゅようを生み、工場経営の安定をしっかりとすることができから。

6 —— 3 「安全なプルトップ缶」とありますが、「谷内さん」が作った「安全なプルトップ缶」の構造が説明されている連続する二文を本文から探し、初めと終わりの五字ずつをぬき出して答えなさい。

7 【 II 】に入る適当な語句を五字以内で答えなさい。

8 —— 4 が四字熟語となるよう、

ア

・

イ

に入れるのに適する漢字をそれぞれ答えなさい。

9 —— 5 「そういうわけにはゆかない」とありますが、これはどういうことですか。次の説明文に続く形で、本文のことばを使って、三十字以内で答えなさい。

【 三十字以内 】からといって、日本の缶メーカーが安全な缶詰を売り出さないわけにはゆかないということ。

10 —— 6 「黒船」とありますが、

- (1) 何を「黒船」にたとえているのですか。本文から十六字でぬき出して答えなさい。
- (2) なぜ「黒船」にたとえることができるのですか。五十字以内で説明しなさい。

(その四)

それぞれ選んで答えなさい。

「たかが知れている」

ア　みなが分かっている
イ　たいして高くはない
ウ　それほど安くはない
エ　もともと決まっている

9 「脱帽せざるをえなかった」

ア 帽子をぬがなければならなかった

イ
おどろ
驚き感心しようがなかった

敬意を表さないわけにはいかなかった

感動で心ふるえることがなかった

字以内で探し、初めと終わりの五字ずつをぬき出して答えなさい。

13 次の一文を入れるのに最も適する場所を探し、入れる直前の七字をぬき出して答えなさい。

「しかし、このS字状のループの構造を思いつくことはできても、ふたをとるときに力と、鉄が内部に持っている応力との釣り合いがよくなければ、ふたがとれなかったり、切り口が隠れなかったりする。」

14 次のア～エについて、本文の内容に合うものはA、合わないものはBと答えなさい。

ア 谷内さんが鉄製の缶のふたの特許を取ったのは、自分自身で工夫して作った金型を大手メーカーに売り込むためであった。

イ 谷内さんが作った安全なプルトップ缶は、コンピュータだけにたよらず、長年の職人の経験から完成させたものであった。

ウ おう 欧米人は自己責任性が強いので、缶のふたで指を切ると、PL法に基づいて缶詰メーカーを訴える傾向が強いと言える。

エ 最近では資源のムダ使いをなくすため、あき缶回収が一般的になり、指を切る事故が増え安全な缶詰を製造する必要がある。

工 最近は資源のムダ使いをなくすため、あき缶回収が一般的になり、指を切る事故が増え安全な缶詰を製造する必要がある。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

長崎県五島列島のある中学校合唱部では、課題曲と自由曲のふたつを合唱して審査しんさされるNコン（NHK全国学校音楽コンクール）出場に向けて活動している。

引き受けることになった。

ある日の昼休み、私は先生のところを訪ねて放課後の課題を聞いた。つまり練習の方針である。その際、先生がデスクの引き出しを開けたのだが、なかにはファンシーなグッズがたくさんつまっていておどろいた。しかしそのことはどうでもよくて、先生は引き出しから課題曲『手紙』の楽譜がくふのコピーを取り出して私に差し出したのである。

楽譜のところどころに「ここは霧きりの中をあるくように濁にごった声を」とか「口の中をひろげて響ひびきを逃にがせ!」とか「自分のなかで祈いのりながら歌え」などと大量に書きこんであった。辻エリの文字だ。

「部長のお見舞^{みま}いに行ってきた、ついでに楽譜をコピーさせてもらったんだ。あいつ、大量のメモ書きをした。これを参考にしながら当面はやっていこう」

さらに、自由曲の作詞の件で話をされる。全員に課した作詞の宿題は、半数以上が□提出だという。²

「提出されたなかから、使えそうなフレーズを抜き出してただけど……。でも、ちょっとこれを見て欲しい」

ノートのページをやぶったものを柏木先生は見せてくれる。ちいさくて自信のなさそうな文字がならんでいた。消しゴムで何度
も消されたような跡もある。男子の文字だろう。その汚さから推測した。3 一読して、私は先生を見る。柏木先生は机に頬杖をつ
かしわき きたな ほおづえ

平成二十五年 度 帝塚山中学校 一次入学試験問題・国 語 (その五)

いて窓の外に目をむけていた。

「損した気分です。最初からこいつに歌詞ばたのめばよかった」

「ナズナが骨格をかんがえて、桑原くわはらが肉付けしたって感じだな」

私は職員室を出て、桑原サトルをさがしてあるいた。彼が仕上げた歌詞を自由曲に採用するのだということを報告するためだ。しかし教室にも図書室にも彼はいない。外だろうか？ たまに男子がぼんやりしている校庭のソテツのところに行ってみる。すると、男子の集団が運動場の端っこを海の方角にむかってあるいているのが見えた。合唱部の男子部員たちだ。彼らにすこし遅れて、ひととき背丈の低い桑原サトルの姿があった。いつものようにうつむいてあるいている。

もしや、と私はぴんとくる。彼は海辺に連れて行かれて、いじめられるのではないか。そのような連想をしたのは、彼らのなかでいつも桑原サトルだけが浮いていたからだ。ひとりだけ真面目に練習をしていたから、

B

 やつだとおもわれたのではないか。事実を確認するため、私はこっそりと後をつけることにする。

うちの中学校は正面に石垣を持ち、裏側が海に面している。といっても砂浜のような気持ちのいい場所ではなく、ごつごつした岩場の海岸だった。運動場を抜けて、岩場におりる階段へと男子の集団が消える。

私は頭を低くして、彼らを見下ろせる場所まで移動した。向井ケイスケ、三田村リクが、岩場の縁に桑原サトルを立たせている。背後は海という場所に桑原サトルは追い詰められたような格好だ。二年生、一年生の男子の集団が桑原サトルを囲む。一人対六人の図だ。絶対的ピンチの状況である。

曇り空の下で、灰色の海がごうごうと音をたてていた。岩にうちつけられた波が、白い泡をちらす。私は次第にこわくなってくる。今すぐに飛びだして声をかけるべきじゃないか。しかし、彼らのおもいつめたような表情に、足がすくんでしまった。ポケットのなかに携帯電話が入っている。岩場の陰にひっこんで、私は携帯電話を操作し、柏木先生にたすけをもとめようとする。そのとき、声が聞こえてきた。統率のとれた男子の声だ。私は手をとめて耳をすます。

「まーりーあー」

聖母の名前だ。岩場から顔を出して確認する。

「まーりーあー」

手拍子でリズムがとられ、様々な音階で聖母の名前はくりかえされる。

自分が おもいちがいをしていたことに気づいた。

①

「もしもし？ なん？」

彼女の声はすもう取りらしさを弱めてだいふ普段通りにもどっていた。

「エリ、これ、聞こえる？」

②

「まーりーあー」

③

男子部員の集団は発声練習をしていたのだ。桑原サトルが六人と向かい合っていたのは、彼が練習を指導していたためである。男子部員のなかでは、彼が一番、真剣に発声練習を受けていた。指導方法に関してくわしいとおもわれたのだろう。

「どげんね？ 聞こえた？」

④

「聞こえた！」

⑤

「でも、どうして急にやる気が出したと？」

「さあね、わからん。男子の考えてることは理解不能ばい」

次の日、体調を回復させた辻エリが自転車に乗って登校してきた。白いヘルメットと眼鏡が朝日にかがやいていた。教室に入ってきた彼女に、向井ケイスケがこれまでのことを謝罪すると、⁵ 彼女は「じゃあ許す」と一言だけ返事をした。

放課後、合唱部のパート別練習の指導をするためにCDラジカセを持って空き教室に入ると、すでに男子は整列しており、いつでも練習がはじめられるようになっていたという。休憩時間はあいかわらず馬鹿みたいにさわいでいたけれど、オンとオフを使い

平成二十五年度 帝塚山中学校 一次入学試験問題・国語 (その六)

わかるようになり、練習時間になると私語をつつしんだ。昼休みになれば遅れをとりもどそうと自主的に海辺へあつまって発声練習をする。私たちに⁶迷惑がかからないよう、Nコンまで練習をつづけるらしい。そうしようと提案したのは向井ケイスケだという噂^{うわさ}だった。

男子部員がやる気をみせたことにより、女子部員内部における⁷賛成派と反対派の分裂^{ぶんれつ}もすっかりなくなった。⁸あいかわらず福永ヨウコや横峰^{よこみね}カオルや数名の女子部員は、二年生男子の関谷という美少年に夢中で、彼が目配せをするたびにさわいでいるが、男子が練習をさぼらないのであれば問題ない。第二音楽室に男子がいることに、以前は違和感^{いわざ}があったのだけど、もうその風景に慣れている自分がいた。

全員で自由曲の題名をかんがえて、それを柏木先生がNコンへの参加申込書^{もうしづみ}に記入する。校長先生の署名をもらい、Nコン長崎県大会を運営するNHK長崎放送局「音楽コンクール」係あてに投函^{とうかん}した。締め切り直前のことである。

六月に入ると、課題曲の練習量が減り、自由曲の練習に時間が費やされるようになった。自由曲の歌詞は全員におおむね好評だった。練習がはじまってからも、みんなの意見を取り入れ、曲や歌詞の細部に修正がくわるる。

雨の日の放課後、合唱部の練習が終わって校舎を出ると、すっかり雨はやんでいて、雨雲もどこかへ消え去っていた。バス通学者の部員は、校舎前の空き地でバスに乗りこむ。辻エリは白いヘルメットをかぶって自転車に乗り、石垣^{いそ}沿いの道でわかれた。私は一人、傘^{かさ}をぶらさげて、水たまりを避けながら家路をたどっていた。ふと顔をあげると、ずっと先のほうに向井ケイスケの背中がある。走ってちかづいて声をかけた。

「ケイスケ、見直したばい。あんたが男子をまとめてくれたっちゃろ」

「おう、一人ずつ話ばしに行ったとぞ」

「大変やったろ？」

「それでもなかったばい。みんな、だれかがそう言ってくれるとばまっとったみたいよ。昼休みに自主練やろうち提案したら、ふたつ返事で了解^{りようかい}された。反対されるっておもっとったけん、拍子^{ひょうしめ}抜けしたとぞ」

向井ケイスケは、小学生のころ、私とおなじくらしいの身長だった。しかし、横にならんでみると、いつのまにかぐんと背丈がのびている。私の目線の高さに、制服の半袖^{そで}からのびた二の腕^{うで}があった。女子の腕とはあきらかに異なる構造の腕だ。

海沿いの道のところどころに水たまりがあり、夕陽^{ゆうひ}が反射してかがやいていた。まるで地面に穴が空いて、そこに光が充満しているようにも見える。

「でも、⁹なんでそがん気になったと？」

「見直したか？」

「すこしだけばい」

「C」

「頭にウジがわいとると？」

海に影絵^{かげえ}のような船が何艘^{そう}も浮いていた。海岸から波止場^{はとば}がまっすぐにのびており、子どもたちが海に飛びこんであそんでいた。どの子も水着は着用せず、シャツと短パンを身につけて海にもぐる。遊びがおわると、濡^ぬれたシャツのまま家にもどってシャワーをあびるのだ。

「もう、部長に迷惑はかけられんけん」

向井ケイスケが言った。

「エリに風邪をひかせたのがこたえとるらしかね」

「まさかずぶぬれになってもどってくるちおもわんやった。辻エリ、おそろしか奴^{やつ}ばい……」

「それだけ、合唱が好きとよ」

「わかつとる。今はもう、男子全員、わかつとる」

海辺にとまっていた鳥が飛びたって、空を旋回^{せんかい}し、高くあがっていく。

平成二十五年度 帝塚山中学校 一次入学試験問題・国語 (その七)

1 A に適する五字の語を本文からぬき出して答えなさい。

2 — 1 「私」の名前を本文からぬき出して答えなさい。

3 — 2 「□提出」とありますが、

(1) 空らんに適する漢字一字を答えなさい。

□提出

(2) 空らんに適する文字と同じものを入れることのできる語を、次の中から選んで答えなさい。

ア □関心 イ □課税 ウ □解決 エ □満足

4 — 3 「一読して、私は先生を見る」とありますがこのときの「私」の気持ちを説明したものとして最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア あまりに文字が読みにくく、大事な歌詞の内容がよくわからなかった。
イ 先生はなぜ初めから辻エリに作詞をさせなかったのかと、腹が立った。
ウ 自分が初めに作った詞のほうがいいのに先生に認められず悲しかった。
エ 自分の歌詞が土台となって、予想以上のものに仕上がっていて驚いた。

5 B に入る語として最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア いけすかない イ 気が置けない ウ おとなげない エ あどけない

6 — 4 「おもいちがいをしていた」とはどういうことですか。具体的に五十字以内で答えなさい。

7 ① ⑤ には次のア～オの一文が入ります。最も適するものを、それぞれ次の中から選んで答えなさい。

ア 私は岩場から腕をつきだして、携帯電話を彼らのいる下のほうにむかって差し出した。
イ 聖母の名前は、海風にのってひろがった。
ウ 辻エリの返事があった。
エ 辻エリに電話をかける。
オ 携帯電話を耳にあてる。

8 — 5 「彼女は『じゃあ許す』と一言だけ返事をした」とありますが、辻エリが謝罪を受け入れたのはなぜですか。「くから。」に続く形で、本文から十二字でぬき出して答えなさい。

9 — 6 「迷惑」とありますが、次の a・b からそれぞれ一語ずつ使って、「迷惑」と同じ意味をあらわす慣用句を作りなさい。

a 「頭 顔 目 腹 足」
b 「折る 引っ張る 光らす 焼く 立てる」

10 — 7 「賛成派と反対派」とありますが、男子の入部に反対だった「私」が自分自身の気持ちの変化に気づいたことを表す一文を探し、最初の五字をぬき出して答えなさい。

11 — 8 「あいかわらず」はどこにかかりますか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア 女子部員は イ 美少年に ウ 目配せをする エ さわいでいるが オ 問題ない

平成二十五年 度 帝塚山 中学校 一次入学試験問題・国 語 (その八)

12 ——— 9 「なんでそがん気になったと？」とありますが、この「どうしてそんな気になったのか？」という質問に対する答えとなっている会話をさがし、最初の五字をぬき出して答えなさい。ただし、会話文であることを示すかぎっこは書かなくてよい。

13

C

 に入る内容として、最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- ア 説得するのは大変だったぞ。
イ オレにほれたのか。
ウ コンクール、頑張るからな。
エ 余計なことしたかな。

14 この文章の表現上の特徴を説明したものとして最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。
ア 倒置法や反復法といった技法を使うことで、登場人物の言動や周囲の状況^{じょうきやう}を印象的にえがいている。
イ 長い文と短い文をたくみに組み合わせ、登場人物の行動の理由と結果を論理的にえがいている。
ウ 回想のシーンを数多く使うことで、登場人物同士の関係や場面の説明をくわしくえがいている。
エ 自然描写^{びようしや}や、方言による会話をういすることで、登場人物の心情をいきいきとえがいている。

三 次の1～10の ——— 部のカタカナを漢字に、11～15の ——— 部の漢字をひらがなに直しなさい。

- 1 業者に荷物をタクハイしてもらう。
- 2 議員としての長年のコウロウが認められる。
- 3 罪を犯^{おか}したため国外へのタイキョを命じる。
- 4 ニンジンやゴボウなどのコンサイ類は栄養価が高い。
- 5 最後の打席で、起死カイセイのホームランを打った。
- 6 あの人のシンソウ心理はだれにも分らない。
- 7 選挙期間中、駅前でガイトウ演説をする。
- 8 病気のチヨウコウは以前から確かにあった。
- 9 全力をあげて敵陣^{じん}地のコウリャクをすすめる。
- 10 この温泉の湯にはいろいろなコウノウがある。
- 11 彼の文章がよく練^{かれ}られていることに感心する。
- 12 あわてず次の便^{べん}りを待つことにしよう。
- 13 私たち学生は、日々熱心に学^{まな}び努^{つと}めるべきだ。
- 14 かつて炭田^{たん}のあったこの町には活気が見られない。
- 15 怒^{おこ}った彼女^{かのじょ}がすさまじい形相^{かたち}でにらみつける。

一

1 a

b

c

d

2 A

B

C

D

3

じゅ。

4

5

6 初め

終わり

7

8 ア

イ

9

10

(1)

(2)

7

9

12 初め

終わり

から。

11

14 ア

イ

ウ

エ

13

14 ア

イ

ウ

エ

1

2

4

5

二

1

2

4

5

(1)

(2)

4

5

6

3

4

5

①

②

③

④

⑤

8

から。

9

10

11

12

13

14

11

12

14

15

1

タクハイ

2

コウロウ

3

タイキョ

4

コンサイ

5

カイセイ

6

シンソウ

7

ガイトウ

8

チヨウコウ

9

コウリャク

10

コウノウ

三

11

られて

12

り

13

める

14

15

カイセイ

6

シンソウ

7

ガイトウ

8

チヨウコウ

9

コウリャク

10

コウノウ

11

られて

12

り

13

める

14

15

カイセイ

11

られて

12

り

13

める

14

15

カイセイ